

くすりのしおり

620754601

2009年11月作成

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。このために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

商品名：エレンタールP 乳幼児用配合内用剤〔経管〕

主成分：アミノ酸、糖質、脂肪、電解質、微量元素およびビタミンを成分とする新生児・乳幼児用成分栄養剤（Elemental diet for pediatrics）

剤形：微黄色の散剤

シート記載：

**この薬の作用と効果について**

消化をほとんど必要としない成分で構成された極めて低残渣性・易吸収性の経腸の高カロリー栄養剤です。通常、新生児・乳幼児に手術前後や腸の病気などで食事の摂取が困難な場合の栄養管理に用いられます。

次のような方は使う前に必ず担当の医師と薬剤師に伝えてください。

- ・ 以前に薬を使用して、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。アミノ酸代謝異常がある、小腸切除を受けて、腸の機能が低下している、下痢、低出生体重児
- ・ 他に薬を使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、大衆薬も含めて他に使用中の医薬品に注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

- ・ **あなたの用法・用量は** << : 医療担当者記入 >>
- ・ 1袋を水またはぬるま湯で溶かし、1歳未満は20～30g/kg体重（78～117kcal/kg体重）、1～2歳は15～25g/kg体重（59～98kcal/kg体重）を1日24時間持続的に経管注入します。通常、1日3～10g/kg体重（12～39kcal/kg体重）を10～15W/V%（0.4～0.6kcal/mL）の濃度で注入を開始し、徐々に濃度を上げて、通常3～10日で18～20W/V%（0.7～0.8kcal/mL）の濃度の維持量に達します。症状に応じて注入する濃度、速度、量が適宜増減されます。注入する液の濃度、速度については十分な管理が必要となりますので、必ず指示された注入方法に従ってください。
- ・ 調製した後は6時間以内に、冷蔵保存の場合でも30時間以内に注入してください。
- ・ 注入し忘れた場合は、その日のうちに、1日分の注入量を何回かに分けて注入してください。
- ・ 誤って多く注入した場合は医師または薬剤師に相談してください。
- ・ 医師の指示なしに、保護者等の判断で注入を止めないでください。

生活上の注意**この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）**

主な副作用として、下痢、腹部膨満感、嘔吐、便秘、貧血、発熱などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、〔 〕内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・ 蕁麻疹、ふらふらする、息苦しい〔ショック、アナフィラキシー様症状〕
- ・ 倦怠感、冷や汗、顔面蒼白〔低血糖〕

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

保管方法その他

- ・ 乳幼児、小児の手の届かないところで、高温、湿気を避け、遮光して保管してください。袋を開封後は、吸湿しないように密閉して保管し、1週間以内に使用してください。
- ・ 薬が残った場合、保管しないで廃棄してください。

医療担当者記入欄 年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、医療専門家向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。